

『ソフト部会』部会長インタビュー

Q： まず最初にソフト部会の活動方針についてお聞かせ下さい

原： 音楽電子事業は電子楽器や音源等のハードウェアとそれを取り巻く様々なソフトウェアが一体となり、初めて意味のあるものになると思います。当部会はその中でソフトウェア全般に関わる諸問題を取り扱います。

基本的な活動方針と致しましては、「マルチメディア、ソフトウェア、コンテンツを軸とした各種調査、研究を通じ、MIDI、音楽電子事業の活性化、普及、標準化活動を行う」ことを掲げ、テーマに応じて専門ワーキンググループを設置し、活動を行っております。

Q： これまで具体的にはどんな活動をされて来たのですか？

原： 先程申し上げた諸問題を議論するためには、参加しているメンバーがこの領域の基本的な知識とトレンドを理解する必要があります。そのために「音楽」「マルチメディア」「ネットワーク」をキーワードとしたメンバー向けのセミナーを実施し、新しい音楽マルチメディアタイトルを見たり、お互いが情報交換などを行うことを実施して参りました。

また、昨年、一昨年にはビッグサイトで開催された「デジタルミュージックフェア」におきまして、シンセサイザープログラマー・プロデューサーとして著名な、松武秀樹さんを講師にお迎えして「MIDIセミナー」を行いました。大変多くの方が受講され、ご好評を頂いております。

標準化活動としましては、MIDI規格委員会に設置されました「GMレベル2音源標準化」ワーキンググループへのソフト制作者サイドとしての参加や、著作権保護の仕組みとして最近注目されております「電子透かし」の技術をMIDIデータに応用した「MIDI電子透かし」のAMEI標準方式に対して、対攻撃性や原音の劣化に対する評価を行って参りました。

Q： 今年の活動テーマについてお聞かせ下さい

原： 今年は大きく分けて次の3つの活動を行っております。

- 1.MIDI及び関連するソフトウェア事業に関する情報交換、勉強会の実施
- 2.GMレベル2スコアワーキンググループによる標準化活動
- 3.AMEI MIDI電子透かしプロジェクトへの参画

1つ目の情報交換、勉強会は、新しいIT技術に応用した音楽制作、音楽配信、標準化に関する動向について、ゲストをお呼びしてセミナーを行い、またお互いの情報交換を行うものです。

GMレベル2スコアワーキンググループでは、従来のGM音源規格を拡張し、より高度な音楽表現が可能となるGMレベル2音源用に制作される楽曲データに関するガイドラインを作成し、普及・啓蒙を計っていくと活動しております。

また、「MIDI電子透かし」の運用、普及のための仕組み作りをしております「MIDI電子透かしプロジェクト」にソフト部会として積極的に参加し、標準化に向けて議論を重ねております。

Q： GMLレベル2スコアワーキンググループ活動についてワーキンググループリーダーの宮西さんに少し詳しくお話を聞かせてください？

宮西： GMレベル2スコアワーキンググループは2年前に発足しました。今までの主な活動として、各社GMレベル2音源の比較試聴及び普及のための様々な方策を議論してきました。

今年に入り、ヤマハ（株）ローランド（株）の2社より「MIDIデータの互換性を高めるための基本合意」の発表がありました。その中でGMレベル2を積極的にサポートすると謳われており、そのことにより当ワーキンググループ活動に弾みがつきました。

今まで各メーカー独自の音源仕様により、楽曲データもそれに合わせ複数用意する必要がありました。GM



右 ソフト部会長 原氏

左 GMレベル2スコアワーキンググループ長 宮西氏

はそういった意味で標準的な規格でしたが、十分な音楽表現のための仕様には至りませんでした。GMレベル2のリリースによりデータの互換性を保ちつつ、十分な音楽表現ができる環境が整ったと言えます。データ制作者としてはGMレベル2用データを作成すれば、多くのユーザーに楽曲を提供することができ、ユーザーもフォーマットを気にせずに購入することができるようになります。

今年度は

- 1.GMレベル2スコア制作ガイドブックの作成と普及の検討
 - 2.データ制作者のための各種ツールの開発・提供
 - 3.互換性向上のための活動（セミナー・公開講座等）
- の3つのテーマで活動を行っております。

Q： この活動によりどのような成果が期待されますか？

宮西： 正直申しまして、現在はGMレベル2に対応した音源、楽曲データが市場に充分に出回っているとは言えない状況です。このワーキンググループ活動を通じ、AMEI側からGMレベル2の魅力を発信する事で「早く」「楽に」「良い」楽曲データを作れる環境が整います。その結果DTMをはじめとしたデジタルミュージックの世界がより広がることを期待しております。

Q： 非常に有意義な活動ですね。今後の活動に期待しております。

宮西： そうですね、この活動を支えるのは実際に楽曲データ制作に携わっている実務者の方だと思います。是非ともそういった方の積極的なご参加と活発な意見交換を期待したいですね。今からでも遅くないですから、興味のある会員の方は事務局までご連絡下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

Q： 最後に今後の抱負をお聞かせ下さい

原： IT社会といわれる昨今、時代の流れはますます早くなっていますが、常に動向をウォッチし、音楽ソフトウェア産業に貢献できるような様々な活動を行っていくと考えております。

例えば携帯情報端末向けの音源仕様であるGMLiteの鳴き合わせやデータ制作の標準化と普及活動、MIDIのインタラクティブ性を活かしたアプリケーションの研究、情報交換、また逆にMIDI以外の音楽コンテンツの活用方法の研究や標準化のための活動など、やるべき事はまだまだたくさんあると感じております。

また、業界として上記のようなスキルを持った人材の育成にも力を注ぐことができればと思います。ソフト部会としてますます活発な活動をしていく所存です。是非、ご理解、ご支援をお願い申し上げます。